

事務事業名	須屋浄化センター及び関連ポンプ場維持管理事業					☐ マニフェスト関連		☐ 全庁横断課題関連	
政策名	総合計画 02	緑豊かな環境と共生するまちづくり				所属部	水道局	所属課	上下水道課
施策名	計画 08	水環境の保全				所属係	管理工務班	課長名	森 章礼
基本事業名	体系 25	水質の浄化				担当者名	坂井修	電話番号 (内線)	096-248-1232 1176
予算科目	会計 50	款 01	項 01	目 03	事業	法令根拠	下水道法、水質汚濁防止法		
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 ↳ (開始年度 S56 年度 ~) ↳ (年度 ~ 年度)								
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ) (単位:千円)			
(事業内容) 須屋浄化センター及びマンホールポンプ場の適正な維持管理運営である。 (業務内容)・消耗品、医薬材料、原材料、燃料の適宜購入事務 ・維持管理確認事務 ・法廷検査対応事務 ・維持管理運転に係る補修対応事務 (①故障報告受付事務②現地調査(緊急であるかの判断)③補修工事契約事務④現地打合せ⑤竣工検査事務⑥支払事務) ・維持管理運転委託事務 (①現地調査②維持管理業務設計書作成事務③維持管理業務契約事務④月毎の竣工検査事務⑤月毎の支払事務)						総投入量	事業費	国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源	
							人件費	事業費計 (A)	0
							人件費	正規職員従事人数 延べ業務時間	
							人件費	人件費計 (B)	0
							人件費	トータルコスト(A)+(B)	0

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

18年度実績(18年度に行った主な活動)

 浄化センター・ポンプ場の保守、点検の委託
 浄化センター・ポンプ場の補修等

19年度計画(19年度に計画している主な活動)

同上

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

浄化センター及び関連ポンプ場

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

施設が支障なく稼働できるようにする

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)

・水質が向上する

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 保守、点検委託の件数	件
イ 補修件数	件
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 浄化センターの箇所数	箇所
イ マンホールポンプ場の箇所数	箇所
ウ	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 不具合やトラブルの発生率(件数)	件
イ 不具合やトラブルへの対応率	%
ウ	

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 市内河川のBOD(測定地点)基準達成率 %	%
イ	
ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移

				単位	16年度 (実績)	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (見込)	20年度 (目標)	21年度 (目標)	22 年度 (最終目標)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							132,000
			都道府県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円		123,080	131,668	132,000	132,000		
			一般財源	千円							
	事業費計 (A)		千円	0	0	123,080	131,668	132,000	132,000	132,000	
	人件費	正規職員従事人数		人			4	7	7	7	7
		延べ業務時間		時間			960	900	900	900	900
		人件費計 (B)		千円	0	0	3,811	3,573	3,573	3,573	3,573
		トータルコスト(A)+(B)		千円	0	0	126,891	135,241	135,573	135,573	135,573
活動指標		アイウ	件 件			12 36					
対象指標		アイウ	箇所 箇所			1 6	1 6	1 6	1 6	1 6	
成果指標		アイウ	件 %			39 100					
上位成果指標		アイウ	%			100	100	100	100	100	

事務事業名	須屋浄化センター及び関連ポンプ場維持管理事業	所属部	水道局	所属課	上下水道課
-------	------------------------	-----	-----	-----	-------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？	旧西合志町での公共下水道計画により、昭和54、55年に浄化センター及びポンプ場が建設され、昭和56年の供用開始により始まった。
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどうか変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	供用開始より26年ほど経過しているため、老朽化施設が見受けられる。5年前と比べれば、補修箇所が多少増えてきている。
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	・維持管理費の削減のため、市外処理場(北部流域下水道)への流入変更 ・付近住民からの悪臭の苦情

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】⇒ ◎施設が支障なく稼働でき、維持管理が円滑に進むことにより、市民の生活環境が保全され、又、放流水の水質が安定する。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】⇒ ◎浄化センター等の維持管理は、市民の生活環境の保全及び公共水域の水質保全につながるものであり、その応分の使用料も賦課されているので、妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒ ◎対象は、浄化センター及びポンプ場であり、意図もこの施設が支障なく稼働できるようにするためのものであるため、適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】⇒ ◎老朽化により機能低下した施設の改築を年次計画をたて実施することにより、トラブルの発生や補修箇所が減り、円滑な維持管理が出来る。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】⇒ ◎本事業を停止・休止すれば、市民の生活環境や公共水域の水質に重大な影響を与える。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある ⇒【理由】⇒ (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ ◎当処理区域に限られた維持管理業務であるため、統廃合・連携はできない。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】⇒
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ ◎今後は指定管理者制度の導入を検討する。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ ◎維持管理については、現在、民間に委託しているが、処理場全体の運営について、指定管理者制度の導入も検討する。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】⇒ ◎受益者より使用料を応分負担して頂いているので、適切である。

合志市

事務事業名	須屋浄化センター及び関連ポンプ場維持管理事業	所属部	水道局	所属課	上下水道課
-------	------------------------	-----	-----	-----	-------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果

- | | | |
|---------|--|---|
| ① 目的妥当性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |
| ② 有効性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |
| ③ 効率性 | ☐ 適切 | ☒ 見直し余地あり |
| ④ 公平性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |

(2) 全体総括(振り返り、反省点)

- ・耐用年数の経過に伴い施設が老朽化し、トラブル発生や補修が多いため、施設の計画的な改築更新が重要となってくる。
- ・指定管理者制度の導入も検討する。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
☒ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

◎現状のままで問題ないと思われるが、指定管理者制度の導入も検討する必要がある。

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		○	×
	低下		×	×

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

◎施設の老朽化により各設備等が機能低下し、補修が増えてきており、改築するには多額の費用が必要となるため、年次毎の計画的な改築更新を実施する。

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
☐ 一部記述不足のところがある
☐ 記述は十分なされている

②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
☐ 一部に客観性を欠いたところがある
☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- | | | |
|---------|-----------------------------|----------------------------------|
| ① 目的妥当性 | ☐ 適切 | ☐ 見直し余地あり |
| ② 有効性 | ☐ 適切 | ☐ 見直し余地あり |
| ③ 効率性 | ☐ 適切 | ☐ 見直し余地あり |
| ④ 公平性 | ☐ 適切 | ☐ 見直し余地あり |

(3) 評価結果の根拠と理由

(4) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(5) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(6) その他2次評価会議で指摘された事項